

【土づくり】のすすめ

『作物の生育が悪い・病害虫が発生する・堆肥を使う時期がわからない・土づくりって?』を解決するためのヒントです。



土づくり

『土づくり』の友
ライス:微生物資材



有機肥料

『有機栽培』の友
ユキパー:ぼかし肥

有機農業ワールド ライス・ユキパー製造元 (有)花巻酵素

【土づくり】とは 適量の堆肥を毎年秋にすき込んで土壌の養分と環境を維持することです。土壌が肥沃になり多くの有効微生物が繁殖し病原菌を抑えます。また堆肥の最終分解物の「腐植」が増え作物の根張りが旺盛になります。作物に病気や害虫の発生が少なく、健全に生育し、毎年美味しく栄養価の高い作物が収穫できます。



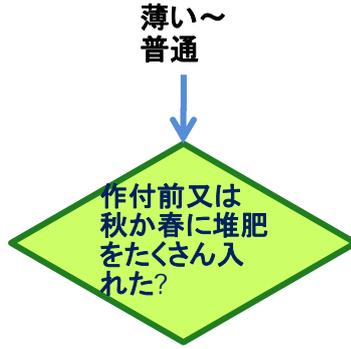
土づくりが出来ていて作物の生育が健全のようです。

土づくり は「ライス」
有機肥料 は「ユキパー」



土づくり
 土壌の過剰な肥料分を発酵分解するために、秋に「ライス」のみを散布して耕起するか、腐葉土や肥料成分が少ない完熟堆肥を少な目に「ライス」と一緒に散布して丁寧に耕起しておく。春の作付け時→肥料は少な目に、「ライス」を畝の溝や植穴に少し使用。

有機肥料
 肥料は効きが穏やかな「ユキパー」が適します。化学肥料を使用している場合は成分が強すぎるので「ユキパー」に切り替えてみる。



発酵不足の堆肥や有機質の入れすぎで土壌が消化不良を起こしているようです。

土づくり
 土壌の過剰な堆肥や有機質の発酵を促進して分解させるため秋に「ライス」だけを散布して耕起しておく。(1～2年続ける。)

有機肥料
 肥料は完全発酵で速効性がある「ユキパー」が適します。

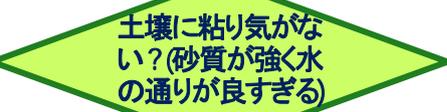
ワンポイント

堆肥のすき込み 堆肥は土壌になじませる期間が必要なので収穫後の秋にすき込みます。春から夏の栽培時期はさけます。完熟堆肥とは 発酵が十分で黒色で無臭の堆肥のことです。植物が大変好みます。発酵が不十分で未熟ですと作物の根に有害なので土壌になじませる期間が必要です。堆肥の行方 土壌中の堆肥は何年か経つと「腐植」になった後分解消滅します。そのため毎年秋に適量をすき込んで補います。



ワンポイント

米糠の使いかた 米糠はそのまま未発酵で土壌にすき込むと腐敗して作物へ病害虫等の害を出します。発酵させ「ボカシ肥」にして使用するのが一番です。「ライス」で発酵させますと短期間で良質の「ボカシ肥」になります。やむを得ずそのまま使用する時は多くない量を春から夏は避けて秋に「ライス」と一緒にすき込みます。また、堆肥を「ライス」で発酵させるときに米糠を混ぜると発酵促進になります。



堆肥が早く分解する土壌のため土が痩せています。

土づくり 必ず毎年秋に「ライス」と多めの堆肥を散布して耕起しておく。
 ・腐葉土が手に入るときは一緒に耕起。
 ・粘質土や黒ぼく土を客土する方法もある。

有機肥料 肥料は速効性の「ユキパー」が適します。

土づくり 必ず毎年秋に「ライス」と堆肥を散布してに耕起しておく。

有機肥料 肥料は速効性があり効きが穏やかな「ユキパー」が適します。